



## Broaden your horizons 80 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

私は心理カウンセラーでもありますので、アロマセラピーの知識を持っているのですが……。さらに磨きをかけるため、先日、日本のアロマ「お香」を体験してきました。先生に「お香について、知っていることを言ってください」と尋ねられた私は、「高貴なお方がおつけになるモノ」と答えました。先生苦笑。や、やば! 予備知識ゼロだ!

日本でのお香の歴史は古く、『源氏物語』にもお香文化が記されていますが、実際には仏教伝来の頃、飛鳥時代538年がその始まりといわれています。お香には香り、カタチ、使い方と種類があります。有名な香りはおばあちゃんの扇子、そう白檀(びやくだん)です。

お香には、①常温で香るタイプ: 匂い袋、②直接火をつけるタイプ: スティック型(お線香)、円錐型(お灸)、渦巻型(蚊取り線香)、③間接的に熱を加えるタイプ: 本格的なもの——があります。

さらに、空薫(そらだき: お部屋に香りを漂わせる)と聞香(もんこう: 掌中の香りを鑑賞する)があります。炭をおこして、灰の上に香木(こうぼく: そのものに芳香を有する木)や練香(ねりこう: 粉末にした香料に蜂蜜などを加えて練り上げ丸剤状にする)、印香(いんこう: 配合した香料をさまざまな形に押し固めたもの)を乗せるのが、空薫です。では、聞香は?

今回、私が体験したのは最も本格的な聞香でした。炭をおこして、灰の中に香木を埋めます。その灰をかきあげて山の形をつくり、頂上に小さな穴(火窓)を開けます。火窓の上に銀葉(雲母の板)を置き、香木を乗せます。そして、手で覆いながら香りを聞きます。そう、香道では「嗅ぐ」ではなく、「聞く」なのです。一定の作法のもと、いくつかの香木をたき、香りを聞き分け合います。なんと優雅。では、さっそく聞いてみましょう……。ん? これは?

香道には、香りの分類法(六国五味: りっこくごみ)があります。香木の産地から、伽羅・羅国・真南蛮・真那伽・佐曾羅・寸門陀羅という6つに分類し、さらにその香りを酸(すっぱい)・苦(にがい)・甘(あまい)・辛(からい)・鹹(塩辛い)に細分します。私には、生菓の香り? 仁丹の香り? いかん、職業病が……。 「児島さん、この香りは?」「あ、甘ではないでしょうか?」「そうです!」。ホッ。これで私も高貴なお方の仲間入り? (笑)

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子